碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

61年6月号（167号）
発行者
根岸岳萃
編集者
中村愛岳

61年6月現在会員数

逗子地区	170名
葉山地区	286名
大船地区	57名
（合計）	（513名）

県本部・役員一覧表

去る五月十一日、県本部総会に於て、左記の通り役員が選出されました。

本部長　常盤岳湘
副本部長　新田岳悠
〃　根岸岳萃
〃　岡嶋岳凰
相談役　松井岳洋
〃　長谷川岳聖
〃　諸留岳城
監事　長谷川岳声
〃　宮崎岳義
総務理事　長谷川岳声
〃　草野岳穣
〃　安孫子岳晴
〃　覚張岳璟
〃　宮崎岳義
〃　橘川岳璟
〃　佐藤岳昭
審査委員長　草野岳穣
〃副委員長　覚張岳璟
〃　橘川岳璟
事務局長　安孫子岳晴
横須賀第一地区長　大森岳箴
横須賀第二地区長　加藤岳相
京浜地区長　高橋岳濤
湘南地区長　佐藤岳欽
庶務部長　鹿島岳久
許証担当部長　佐藤岳統
教務部長　中島岳湖
企画部長　立平岳昇
広報部長　増田岳厚
経理部長　佐藤岳昭
青少年部長　加藤馨岳

（碩心会から県本部役員に）

事務局次長　竹石憲岳
庶務副部長　千葉香岳
教務〃　千葉劒岳
広報〃　中村愛岳
青少年〃　加藤圭岳

（碩心会から県本部理事に）

沼田洸岳　小峯桜岳　中村幸岳
森田暁岳　岩崎恵岳　秋元粱岳
山口夕岳　鈴木孝岳　松野宝岳
杉山雪岳

◎行事予定

（第12回全国選抜者吟道大会）
とき　61年7月6日(日)
ところ　九段会館
碩心会から真澄支部の土屋純山さんが出場されます。

和歌・短歌の朗詠についての所感

六十一年度から神奈川県本部に於ても、新しく発行された和歌・短歌の朗詠集を用うる事になり二月、高段者の審査にはじめて新朗詠法で審査を受けた。その審査結果講評に、総体としてやはり和歌・短歌の評価点数がよくないといわれた。

新朗詠法になり、あちこちで、むずかしい、やりにくい、前の朗詠法の方がよかった等の声を聞くけれど、符付に忠実にという言葉は何度となく聞く言葉であるので、教本の符付通りにやらねばならないと思う。

特に指導に立つ者にとっては正しい符付を少しでも早く習得しなければならない。指導者自身があいまいでいたなら、生徒さんは尚更どうしようもない。

そこで指導者は自信を持って指導できるよう、各人に於て勉強することは勿論、碩心会の指導者講習会等に於て、現時点で特に和歌・短歌の朗詠法の研究をとりあげてみてはどうかと思うのだが如何。（一指導者）

逗子・葉山の歌・俳句

〝明治は遠くなりにけり〟

明治から昭和の初期にかけての逗子葉山を舞台にして歌や句は多い。

海　辺　雪　　明治天皇御製

海人ばかりすむとききつるくれ竹の
葉山のうらはひらけけるかな　（明治43）

遠山　英一

くれ竹のはやまの里にひとよねて
はつうぐいすをききてける哉　（明治33）

。「くれ竹」は葉山にかゝる枕言葉

高崎　正風

浪の音のせぬ夜さびしと思うまで
あまの磯屋にすみなれにけり　（明治32）

。「あまの磯屋」は恩波閣と呼ばれた正風の別荘のことで、今も建物が残っている。

虚　子

荻咲くや　葉山通いの仕舞馬車　（明治38）

眉　月

夜を寒み　浪切不動灯しけり

萬　浦

陽炎の　燃ゆる浪切不動かな

以上の作品を現状と重ねあわせてみると〝明治は遠くなりにけり〟の感を深くせざるを得ない。

ぎんなん

碩心会では吟に伴奏を取入れてない（尺八をつけるだけでは伴奏のうちに入らない）ので、あまり問題にしてないようですが、吟じているうちに音程の狂う人がかなりあるようです。演奏家の言によると、尺八の場合四半音（半音の半分）狂ったらもう演奏できなくなるので、途中で尺八をかえざるを得なくなる。琴は、許音範囲が尺八よりさらに厳しく、四半音狂ったら演奏を中止せざるをえなくなるとのこと。詩吟が、邦楽の外にある事情はこの辺にあるのか。

漢字のよさが見直される時代

☆漢字には音と訓という二重性がある。風力計をカゼノチカラハカルと読み、自動車をミズカラウゴククルマと読めば、初見の人でも意味がわかる仕組みになっている。

☆中国では、レーザーが激光で、エレベーターが電梯。日本でもハイテクを高技、ワープロを語処と書いたらどうか。又高技、語処とふりがなをつけたらどうか。

☆漱石の文章を読むと、停車場、洋杖、露骨、茫乎と、かなり奔放にふりがなを使っている。（朝日新聞・天声人語よりの一部）

新緑を訪ねて

鎌倉散策

五月十八日(日)、暑からず寒からずの散策日和に恵まれ、軽装の吟友は江の電にゆられて稲村ケ崎駅下車。途中路地の一角にある新田義貞鎌倉攻めの時戦死した、十一人の遺骸をこの地に葬り、十一人観音堂を建立したという十一人塚に詣る。

そこから海に向うと稲村ケ崎。懸崖に立ち眼下の海を見下せば、その昔新田義貞が黄金造りの太刀を海中に投じ、神の加護を願ったという往時の伝説に思いが馳せる。

丘の上で弁当をひろげれば、江の島をバックに三角帆が白波をけたてて走り、若者達の海への夢と憧れを誘う。そして公園の一角にある〝真白き富士の嶺緑の江の島……〟の歌で知られる開成中学生遭難記念碑が、遠く相模の海を見おろしている。

江の電線路沿いにうつぎの花咲く路地を行き、忍性開山という極楽寺へ。昔は七堂伽藍に四九院を数えた大寺院であったが、度重なる戦火で今は数棟の堂宇が残るのみという。釈迦如来立像や、忍性塔など多くの重要文化財があり、本堂前の石の薬鉢と茶臼は、貧者や病人の救済につくした忍性の遺徳を偲ばせる。

踏切をよぎり、人家の細い路地を少し上ると上杉憲方の墓がある。私は層塔と並んで建つ鎌倉石の五輪塔の風化の様に年月を感じ深く心に残った。

長谷に向って行くと極楽寺切通しがあり、長い石段をのぼった高台にひっそりとした佇いをみせるのが成就院。北條泰時の開基といわれ、寺の縁起によると、弘法大師がこゝで護摩供を修めたといわれ、境内にはつい最近、大師入定千五百年を記念して建てられた大師像が目に入った。

成就院から由比ケ浜を見下しながら坂道を下ると、鎌倉十井の一つ、星月夜の井がある。昼間でも井戸の中に星の影が見えたということからその名があるという。

その近くに虚空蔵菩薩を安置する虚空蔵堂があり、無限の福徳知慧を具え、常にこれを人に与え、諸願を成就させた仏といわれる通り、堂にはられた無数の願望成就のお札がそれを物語っていた。

最後は御霊神社。後三年の役に活躍した鎌倉権五郎景政を祀るといわれ、敵に目を射られながらも矢も抜かずにそのまゝ相手を討ち取ったという勇猛なエピソードは私達の知るところ。又毎年九月十八日の祭礼には〝はらみつと〟という奇妙な行列が出ることでも有名で、出口の、昔ながらの茶店でのどをうるおしながら、其の折には又みんなで来たいものと約しました。(愛岳)

古都探訪

白井　寿岳

葉桜や　石薬鉢の施療跡
香を逐えば　はまなすの庭成就院
りんどうの餅ほほばりて古都の茶屋

石渡　桂岳

少年の　像を礁(いくり)に涅槃(ねはん)西風(にし)
ひたひたと　夏潮寄せる古戦場
紫陽花の　坂ゆるやかに成就院

板橋　雅風

苔仏に　身のひきしまる木の芽風
禅寺の　花に逢ひ見し小判草
卯の花に　風のやわらぐ奥の堂

自然と人生(六月)

(夕山の百合)

夕方後山に登る。夕風青茅(あおがや)を戦(そよ)がして、百合の花の香其処はかとなく漂ひ、丘上(きゅう)にしょんぼり月の影あり。日は大山の右に入りて、径を狭(さしぼさ)む青茅(かや)の一色の青黒きに、黙々たる百合の花、朧夜(おぼろづきよ)の星の如く、ほの白う暮れ残りぬ。風そよそよとして夕山の香袂に満つ。

六月十三日

練吟メモ

○鎌倉・室町時代から戦国時代へかけ、文化の主要な中心が、京都・鎌倉の五山に移りました。そして詩風は、禅僧達の影響を受け、これまでの王朝風から脱却し、文を含め、五山文学として日本風になり、質量ともに王朝時代をしのぎました。それにはこの時分に、中国から木版ではあるが印刷術が導入されたことも大きな理由となっております。しかし、木版の制約上、あまり細かい振り仮名や、送り仮名は敬遠されたので、それまでのキメの細かい読みは、次第に簡潔な読みへと変って行きました。

○江戸時代に入ると、幕府の学問奨励により、漢詩文は武士、町人にも読まれるようになり、特に、幕末から明治維新にかけては最盛期となりました。そして訓読の方法には、かなり近代的な変化が生じて来ました。やわらかな和語を減らし、漢字をなるべく音で読もうとしました。例を挙げると「死」は（死にき）か（みまかりぬ）と読んでいたのを「死す」と読む。「望見」は（望み見る）ではなくて「望見す」と読むようになりました。現在から見ると、当り前のようですが、これは大きな変化でした。

○明治・大正・昭和にあっては、学校教育制度が確立され、また、飛躍的な印刷技術の進歩により、漢詩の世界は一変しました。すなわち、漢詩は新聞、雑誌に登載され、漢文教科書も発行され、また、漢詩文の専門書籍も多数市販され、漢詩文は国民の教養の基礎となったわけであります。明治となり、西洋文学の輸入に急で、漢文学は衰微の一途をたどったように考えられがちですが、詩学においては全くその逆でありました。明治の初期までは、私塾や詩社を中心とした一部の人材による繁栄であったものが、明治中期以後は、国民すべての教養として侵透したわけであります。

○学校教育の制度化に伴い、文部省が明治四十五年三月「漢文教授に関する文部省調査報告」として、訓読法の統一を行ったがそれが現在まで継続しています。現在の漢詩の読み方は、大方は江戸末期から百年あまりの期間に伝承され、完成された訓読と思ってよろしいようです。しかし、極めて古い歴史を持つ訓読のこと、「読み」で生き残ったものがあるでしょうし、細かい部分での違いがあるのは致し方ないことと思います。

◎原稿募集のお願い

当月報〝碩心〟も今月で（167号・13年と11ケ月）と続いております。私が広報を受持ってからも九年目に入りました。そこでマンネリ防止のためにも、ぜひ多くの皆さんの投稿をお願いしたいと思います。「みんなの月報・碩心」です。詩吟に多少なりとも関連ある記事でしたらなんなりとどうぞ。きたんない御意見も歓迎。無記名投稿も可。古参・新入会者等はいっさい問いませんのでどしどし投稿をお願いします。

正直いって今月も記事が集らず苦労し、結局広報部で穴埋めという六月号です。

又広報部に対しての提言、助言等いたゞけたら倖せです。

（広報部）

（訂　正）

5月号月報教場一覧表の（場所）中左記の通り訂正

葉月　広瀬翔風方を翔岳方に

銀詠　千葉剣風方を剣岳方に

堀内E白井寿風方を寿岳方に

（入　会）

747 鈴木　博　横浜市港南区港南台6－1－6－508 （～B）（電）〇四五－八三一－六〇五七

（退　会）

538 高井　環（堀内・F）